平成 26 年度阿蘇づくり大賞は「二重峠の石畳（車帰地区）」に決定！

WebTV アソ 動画

2月25日に、阿蘇青少年交流の家で第9回サテライト協議会全体会議を行いました。ＡＳＯ田園空間博物館では、阿蘇市民が選んだ阿蘇市で特に大切にしたい、後世に残していきたい、自然、景観・風景、歴史・文化のことを「サテライト」と呼び、地域の方々と守り、活用する取り組みを行っています。現在90のサテライトが登録されており、今回の全体会議には各サテライトの代表者、区長、公民館長にも参加していただきました。

受賞したサテライト代表の皆さん

会議の中ではＡＳＯ田園空間博物館から支援を受け活動したサテライトの事業報告や、散策イベントなどでの注意を促すリスクマネジメント研修、現在噴火している中岳を始めとする阿蘇山についての勉強会なども行いました。参加者の皆さんは大変興味深く聞いていらっしゃいました。

そして、今回一番盛り上がったのは、やはり「阿蘇づくり大賞」の発表です。これは最も精力的に活動を行ったサテライトを表彰するもので、阿蘇づくり大賞に「二重峠の石畳（車帰地区）」、優秀賞に「碧水ホタルの里（北黒川地区）」、田空賞に「乳の木（楢木野地区）」がそれぞれ選ばれました。

阿蘇づくり大賞に輝いた「二重峠の石畳」は平成26年度に3回、ＡＳＯ田園空間博物館と協力して散策イベントを行いました。中でも年度初めに開催した「阿蘇市をさるこう！留学生編」では約40名の県内在住外国人留学生を受け入れ、地区の一丸となったおもてなしに留学生の皆さんも大変満足されていました。

ＡＳＯ田園空間博物館では、今後も地域の活動に寄り添い、まだまだ知られていない阿蘇の魅力を皆さまと一緒に発信していきたいと考えています。

新規サテライト紹介

No.89 車帰水源（車帰）

車帰水源は周囲が 200 mもあり、広々として解放感があります。この水源は車帰地区の生活用水として重宝されています。四季折々の水面に映る景色は言葉を失うほど感動すること間違いなし！

No.90 湧沢津の泉（宮地）

湧沢津の泉は、湧水元々の姿を残した池となっており、元来宮地の湧水はこのように湧き出していたと考えられています。この付近にはたくさんの遊水池があり、「湧沢津」という名前もこれに由来していると言われています。

サテライトについてのお問合せは ASO 田園空間博物館事務局まで。

自衛隊一般幹部候補生採用試験

一般幹部候補生とは、大学の文系および理工系から進む通常の幹部候補生コースで、海上・航空自衛隊の飛行要員及び陸上・航空の技術要員が含まれます。

幹部自衛官の養成機関である「陸上・海上・航空各自衛隊幹部候補生学校」での生活から幹部候補生の教育が始まり、初級幹部としての必要な知識と技能を学びながら、幹部としての資質を養っていきます。

教育期間は約１年間で、防衛基礎学、戦術、戦史、戦技訓練、体育、服務、防衛教養、実技などの科目があり、陸上・海上・航空の特色を生かした教育が行われます。

職種	陸上	海上	航空
募集人員	約１２０名 ※うち女子約１０名	約５０名 ※うち女子約１０名	約５０名 ※うち女子約１０名
応募資格	２２歳以上２６歳未満（平成２７年４月１日現在）		
受付期限	５月１日（金）（締切日必着）		
試験日	**（１次）** ５月１６日㊏・１７日㊐　※１７日㊐は飛行要員のみ **（２次）** ６月１６日㊋～１９日㊎		
試験会場	熊本市		

＜問い合わせ先＞自衛隊熊本地方協力本部阿蘇地域事務所　☎２２－４５７５

食改だより

阿　蘇　支　部

卒業を前に、思い出に残る「郷土料理教室」開催

卒業を前に、阿蘇中学校３年生を対象に「郷土料理教室」を初めて開催しました。伝承料理を知ってもらい調理することで、地域に根差した食生活の素晴らしさについて学び、社会に出てからも伝承してもらおうと企画しました。

献立は「高菜めし」「だご汁」そして、阿蘇支部のオリジナルレシピ「チキンと野菜の香味ソース」。調理前に、「高菜めし」の由来として昔、何もない時代にたくさんの子どもを育てた母親が、早く簡単に、地元の野菜を使ってできる料理として考えられたことや鉄道員さん方への接待料理であったことなどを話しました。調理の技術に個人差はありましたが、全員で何かを成し遂げる喜びを味わっているようでした。特に、男子生徒の行動力には目を見張るものがありました。

後日、一人一人からいただいた感想文の中には、「自宅でも復習して料理をして家族で食べた」「いつも料理をしているお母さんの大変さがわかった」「今後も郷土料理を学んで伝承していきたい」など、多くの嬉しい言葉が寄せられました。中学生活最後の思い出として、これを機会に料理が好きになってくれることを望みます。

（阿蘇支部　阿南眞佐子）

阿蘇の森林で働こう！

～平成27年度 くまもと緑の新規就業促進対策事業～

林業就業のための研修開講！受講者募集！

ことし２月、森林施業の現地研修で西湯浦の現場で研修を受けた研修生の皆さん（中央４名）

日本の森林は国土の３分の２を占め、水資源の涵養や山地災害の防止、生物多様性の保全など、さまざまな恵みをもたらしており、私たちの生活に密接に関わっています。

この森林を持続的に機能させていくためには、植栽や間伐などの森林整備が不可欠で、その森林整備を担う林業は重要な職業の一つです。

平成22年の国勢調査によると、林業従事者の数は約５万人で、長期的に減少傾向で推移しています。また、高齢化率（65歳以上）は、21％（平成22年）で、全産業の平均10％に比べ高い水準にあります。

林業労働力確保支援センターの機能を有する公益財団法人熊本県林業従事者育成基金では、新たな林業担い手を育成するため、林業に関する知識や技術の修得を目的として、毎年研修を開いています。

ことしも左記のとおり募集を予定しています。林業に興味のある方は、ぜひご応募ください。

森林組合や林業会社などの林業分野（事務職員ではありません）へ就職を志す意欲の高い方を対象に、林業に関する知識や技術を学ぶ研修を開講する予定です。

支給条件を満たす場合に限り、受講期間中は月額12万５千円の「緑の青年就業準備給付金」が支給されます。

【募集要領】

●研修期間
５月～平成28年３月の平日
午前９時～午後５時
※上記期間中、１７８日程度の座学・実地研修を予定

●募集人員　10名（試験・面接あり）

●募集方法　詳しくはハローワーク及び求人情報誌などに設置・掲載する募集要領をご覧ください。
（４月中～）

●研修場所　熊本県林業研究指導所（熊本市中央区黒髪）・県内林業現場など）

●受講料　無料（ただし、交通費、昼食などは自己負担）

研修内容や募集要領の詳細は以下までお問い合わせください。

◆問い合わせ◆
（公財）熊本県林業従事者育成基金
☎096－340－1151

同事業の受講者受け入れを予定している阿蘇市の事業者のもとに４名の受講生が参加。事業者である山部博典さん（古城６区、写真㊧）の指導を受け、樹木の伐採、間伐のノウハウを学んだ。「生活の中で林業は役に立つ。良い条件が揃っているのが阿蘇です。ぜひこの制度を活用してもらいたい」と山部さん。

家族や身近な人との関係を見つめ直し、
人権や差別について話し合う機会を持ちましょう。

人権作文

家に帰ってからのこと

波野小学校6年　大塚 弥月（みつき）

ぼくは、いつものように三時三十分ごろ家に帰りました。お父さんはバスの運転手、お母さんは病院の事務の仕事をしていつも帰りがおそいので、家にだれもいないのを知っていました。でも、一応、

「ただいまー。」

と言いました。学校にむかえに来てくれたおじいちゃんにさようならを言って家に入りました。妹にテレビをつけてあげました。そのうちに、ぼくと弟は宿題をしていました。すると、知らない電話番号の人から電話がありました。ぼくが、

「もしもし。」

と言うと、

「弥月、今日帰りがおそくなる。」

とお母さんが仕事場から電話をかけてきました。妹と弟にそのことを話しました。妹は悲しそうな顔をしていました。でも、すぐテレビを見始めました。ぼくと弟も急いで宿題をし始めました。宿題のと中に妹が、

「お兄ちゃん、おかしが欲しい。」

と言い出しました。おかしを出してあげると、うれしそうな顔をして、

「ありがとう。」

と言いました。宿題が終わってテレビを見ていると、五時になりました。弟が洗たく物をたたんでいました。ぼくもいっしょにたたみました。すると、妹が不きげんそうな顔をして急に泣き出しました。ぼくと弟は、必死に泣きやませようとしました。最初、ぼくと弟は、

「どうしたの。どうしたの。」

と言いました。

でも、妹は、

「ママー。」

とずっと泣いていました。ぼくが弟に、

「どうする。」

と言いました。弟は妹に、

「どうしたの、だいじょうぶ。」

と心配そうな顔をして言っていました。ぼくは、妹におかしをあげたり、好きなテレビを見せたりして、泣きやませようとしましたが、妹は全く泣きやみません。妹がずっと泣いているので、ぼくは少し怒って、

「いいかげん泣きやんで。」

と言いました。それでも泣きやまないので、弟が大声で、

「泣くな。」

と言いました。そしたら少し泣きやんで、テレビを見始めました。車は、家の近くを通るけど、なかなかお母さんが帰って来ないので、少し不安になりました。弟は、

「まだかなー。まだかなー。」

と言って家をうろちょろしていました。ぼくは、不安になりながらも、テレビを見ていました。すると、

「ピンポーン。」

と家のチャイムが鳴りました。弟がお母さんと思ってドアを開けました。そしたら、郵便屋さんでした。弟はがっかりして、ドアを閉めました。外はけっこう暗くなっていました。不安になった弟が電話をかけようとしたとき、

「ピンポーン。」

二回目のチャイムです。弟と妹が走ってげんかんに行きました。ドアを開けたらお母さんでした。お母さんは、

「つかれた。」

とため息をつきました。ぼくがお母さんに、

「今日、帰りがおそかったから、ぼくと伽月で洗たく物をたたんでおいたよ。」

と言ったら、びっくりした顔でたたんでおいた洗たく物を見て、

「ありがとう。」

と言いました。弟は、妹が泣いて大変だったことを話しました。すると、お母さんは、

「留守番がんばったね。大変だったね。」

と言いました。がんばってよかったなと思いました。

先生からのコメント

弥月さんは、兄弟で協力して留守番をしたときのことを書いてくれました。弥月さんは家では一番上のお兄さんとして、弟や妹のことをよく見ていることが文章から伝わってきます。また、仕事から帰ってきたお母さんを気づかって、料理の手伝いや食事の準備、お風呂の掃除などをしています。弥月さんは、お母さんからほめられるとうれしいそうです。

学級の友達もそれぞれ自分のくらしを見つめ文章にまとめました。みんなで読み合いながら、互いのくらしを理解することで、絆を深めてほしいと思っています。

人権作文　平成25年度　阿蘇市人権作文集「かけはし」より　※学年は平成25年度時点。